

## 川崎町志18年教育「学びの架け橋レインボープラン」の概要

### 1 川崎町の概要及びこれまでの取組

川崎町は、山形県境に接する山間部に位置する人口約9400人の町であり、釜房ダムを中心にした観光と農業の町である。また、慶長遣欧使節支倉常長公を輩出した地であり、昨年は出航400年祭がみちのく杜の湖畔公園において盛大に開催され、多くの児童が参加した。みやぎの先人集「未来への架け橋」にも取り上げられている支倉常長である。多くの困難が立ちはだかる中、粘り強く役目を果たした常長。自分の夢、目的へ向かってのひたむきさ、そして使命を自覚し粘り強く取り組もうとする風土が、今なお川崎には根付いている。

平成26年度における川崎町の教育基本方針は、川崎町民憲章に示す町づくりを目指し、宮城県教育基本方針を踏まえ、町の今日的教育課題を的確に把握しながら、生涯学習の視点に基づく学校教育及び社会教育を推進し、「生きる力」と「深い郷土愛」に満ちた町民の学びを培う教育の実現を掲げている。また、学校教育基本方針には、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの教育的役割を果たしつつ、社会の変化に主体的に対応できる人間形成を目指し、次の方針の基にその実現に努めている。

- 豊かな心と健やかな体の育成
- 確かな学力と自己教育力の育成
- 地域の特性とニーズに対応する教育環境づくり
- 芸術文化・伝統の推進

これまで、川崎町教育委員会を中心に「川崎魂を育む かわさき自分づくり教育」を推進してきた。これは、人間形成の基礎をつくる幼児・小中学校・高等学校の時期に、生活習慣の確立や将来への夢・希望をもち、仲間、家族、地域住民との関わりを通して、生きる力を育てようとする取組である。知・徳・体・食を中心に、地域・家庭・学校・行政が協働で、子どもたちに学ぶことや働くことの意義を伝え、自己有用感や生きがいを感じる「自分づくり」をみんなで育てようとするものである。

平成25年度の取組の成果としては、「自分の目標や将来を意識して学校生活に取り組むようになったこと」「学校、家庭、地域が一体となって子育てに取り組む指標として効果的であったこと」「協議や情報を交換することで連続的な視野で子ども見守ることができたこと」が挙げられる。

昨年度に引き続き、「生まれ育った川崎を愛し大切に思う心」「最後まであきらめずに頑張る力」を身に付けさせるために「川崎魂」の合い言葉を次のように掲げている。

### みんなで育む川崎魂 10か条

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| (1) はやね はやおき あさごはん | (6) ルールを守って友達づくり   |
| (2) 明るいあいさつ 良いえがお  | (7) 思いやりのある行動をしよう  |
| (3) 読み 書き 計算しっかりと  | (8) 家族や友達を大切にしよう   |
| (4) 家族みんなで 学び合い    | (9) 「ありがとう」を忘れずに   |
| (5) 地域を知り 地域で遊ぼう   | (10) 夢をもち 一生懸命頑張ろう |



## 2 川崎町学校教育重点施策としての「志教育の推進」(平成26年度川崎町教育基本方針)

- (1) 児童生徒一人一人の興味・関心・適性に応じた望ましい勤労観や職業観の涵養と自らの生き方を主体的に選択する能力や態度を育成する。
- (2) 将来への夢と志の実現に向けた学習活動を充実し、児童生徒の学ぶ意欲と態度を育成する。
- (3) 震災から復興を目指した社会貢献活動を視野に入れた活動を工夫し、児童生徒の学ぶ意欲と態度を育成する。

## 3 川崎町「志教育実践目標」

町内の各園・小・中・高等学校の各校種が、家庭及び地域と連携して、人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えながら、現在や将来において、よりよい生き方を主体的に求めていく子ども(園児・児童・生徒)を育成する。

## 4 川崎町の事業方針

- (1) 幼小中高18年間を見据え、義務教育の枠を超える長い視点で、川崎町が誇る園児・児童・生徒の健全な育成を図る。
- (2) 18年間に渡る子育てプログラムを作成し、発達段階に即した継続的な指導を行う。
- (3) 「小1プロブレム」は「小1エンブレム」に、「中1ギャップ」は「中1ジャンプ」の言葉に置き換えられるような川崎らしい各校種間の接続を図る。
- (4) 18年間を通した生き方教育という大きなくくりの中で、現在実施している川崎町の施策を融合し、社会的に自立した深い郷土愛に満ちた子どもの育成を図る「川崎町の教育総合プラン」を継続する。

## 5 川崎町としての事業内容

- (1) 推進地区連絡協議会及び幼小中高志教育担当者会の設置、運営
- (2) 家庭及び地域、幼・小・中・高等学校との連携した事業の立案と実施
- (3) 各校種別の年間計画に基づいた事業の実施
- (4) 各教科・領域等における授業の実践
- (5) 講演会等の実施
- (6) 事例発表会『志教育フォーラム in KAWASAKI』の実施
- (7) 事業についての成果と課題の明確化、次年度以降の計画
- (8) 事業の評価と事例報告書の作成

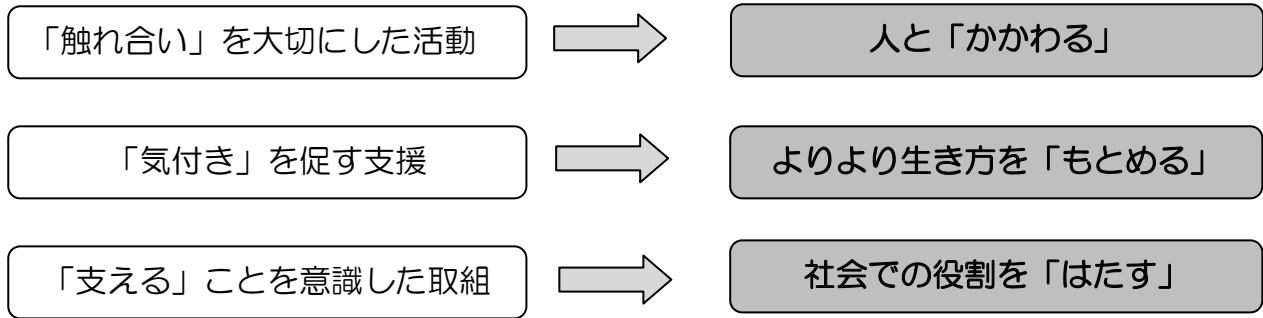
## 6 川崎町が目指す子どもの姿と「志教育」の3つの視点の関わり

人と自然に触れ合い、自分の役割に気づき、

集団や社会を支える『かわさきっ子』



〔志教育〕 3つの視点



7 川崎町独自の「かわさきっ子 虹の架け橋子育てプログラム」

幼・小・中・高等学校18年間を見据え、義務教育の枠を超える長い視点で、川崎町の大事な未来を担う園児・児童・生徒の健全な育成を図るための子育てプログラムを作成する。川崎町に勤務する教員の経験則から見た18年間の子育てを子どもの発達段階に合わせ、乳児期から幼児期、高校後期までの7段階に区分する。

8 事業計画

月日	川崎町推進地区連絡協議会	川崎町幼小中高志教育担当者会	県教委関係事業
4.25			第1回志教育支援事業推進会議
6.19	第1回連絡会議(川崎小)13:30		
7.28		第1回担当者会(川崎小)9:30	
8.4			第2回志教育支援事業推進会議
10.4			
12.1		第2回担当者会(川崎小)15:00	
12.	第2回連絡協議会(川崎小)13:30		
1.15		第3回担当者会(山村開発センター)	
1.16	「志教育フォーラムⅡ in KAWASAKI・Ⅱ」13:50 山村開発センター		
2.5			第3回志教育支援事業推進会議
2.		地区事例発表会視察	

9 川崎町の具体的な取組

- ① 職場体験学習
- ② 異校種間の連携(幼小交流会, 幼中交流会, 小高交流会・実習体験, 幼高農業体験交流など)
- ③ 同校種間の連携(小学校第3・4学年音楽発表会, 小学校第5学年セカンドスクール, 学校第6学年中学校体験会, 特別支援学級交流会, 小学校2校合同修学旅行など)
- ④ 講話・講演(川崎町町長, サン・マリノ共和国大使, テレビキャスター, ピアノ弾き語り, 慈眼寺住職の千日回峰行など)
- ⑤ 川崎町未来教育フォーラム ～児童・生徒が考える川崎町の将来～
- ⑥ 志教育実践授業「川崎町教科等研修会」の実施
- ⑦ 「川崎町志18年教育 志フォーラム in KAWASAKI」の開催